

青武台だより



No.191

平成23年12月15日発行

目 次

ページ

1. はじめに

女子中学生と保護者のための体験学習 2

2. 活躍する仲間

第46回全国高専体育大会 3~5

第46回全国高専体育大会成績 6

アイデア対決ロボットコンテスト 6~7

第18回全国高専将棋大会 7

第43回福井県吹奏楽コンクール 8

第56回全国高等学校軟式野球選手権北信越大会 8

第66回国民体育大会ソフトボール北信越地区予選 9

第47回高専祭 9~10

弁論大会 11

献血事業協力 11

クリーン大作戦 11

活躍する仲間たち 12~13

平成23年度教育後援会奨励研究一覧 14

平成22年度教育後援会奨励研究概要報告 14~16

3. 学生の将来と進路

進路の決定 17

大学編入試験体験記 18

就職試験体験記 18

インターンシップ体験記(本科) 19

インターンシップ体験記(専攻科) 20

専攻科生によるシーズ発表 20

4. 中学生の皆さんへ

オープンキャンパス 21

中学校だより 越前市 南越中学校 21

5. 学園通信

救急救命講習会・実技講習会 22

クラシックコンサート 22

平成23年度防災訓練 23

学寮防災訓練について 23

災害ボランティアに参加して 23



はじめに

女子中学生と保護者のための体験学習

企画室長 田 中 嘉津彦

余り知られていないが、現在流通している洗濯機、冷蔵庫やハンディ・ビデオカメラなどの家電製品を中心にしたヒット商品には女性技術者が中心になり、女性ならではの視点や感性に基づいて開発されたものも少なくない。今後の我が国のものづくりにおいては、独創性と製品付加価値を高めるためにも、女性の理工分野への進出と女性技術者の活躍が多いに期待されつつある。

このような背景を受け、女子中学生の皆さんに理工系分野への興味と関心を持つてもらうことを目的に、女子中学生(1~3年生)と保護者を対象にした体験学習を、去る9月24日(土)午後から開催した。このイベントは今年度で3回目を迎え、回数を重ねるごとに中学生の参加者数は増加し(1回目の参加者数は45名)、当日は県内を中心に兵庫県や滋賀県から中学生67名(1年生4名、2年生5名、3年生58名)、保護者28名、総数95名の参加者を得た。

女子学生の協力の下、今年度は以下のテーマで、本校5学科における特徴的なものづくりやデモ実験に加え、クラブ活動として学内外で精力的な活動を展開しているサイエンス・クラブでのデモ実験の6コースを、順次体験してもらった。

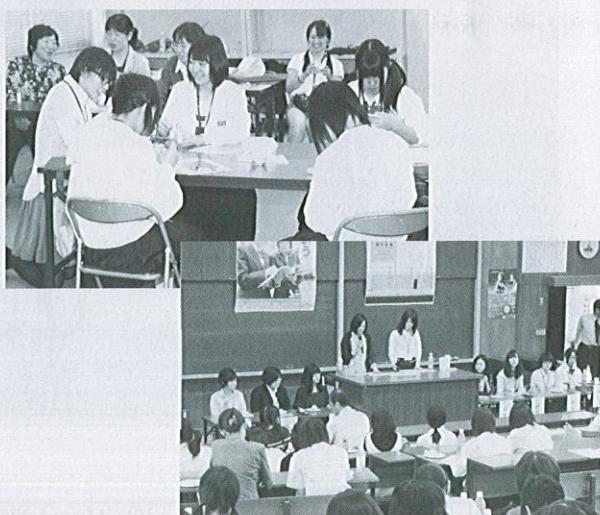
| 学 科 等 | テ マ |
|-----------|----------------------|
| 機械工学科 | ふしぎ実験 噴水♪夕焼け♪電球♪ |
| 電気電子工学科 | スピーカーを手作りして音楽を楽しむには? |
| 電子情報工学科 | 私にもできるプログラミング |
| 物質工学科 | 分析化学者へのスタートライン |
| 環境都市工学科 | アート?サイエンス?紙で創る3Dデザイン |
| サイエンス・クラブ | 霧箱をつかって放射線を観察しよう |

体験学習後には、女子学生主導で懇談会を開催し、本校に入学した場合の将来の自分たちの姿が容易に想起できるように、体験学習協力女子学生にはオールモデルを務めてもらった。懇談会時には、中学生や保護者から“高専への入学志望動機や卒業後の進路”、“選抜試験の攻略法”や“学生生活での問題点(学寮生活を含む)”などの質問が寄せられ、女子学生たちはこれらについて懇切・丁寧に回答している姿が印象的であった。

すべての日程が終了した後に参加者を対象にアンケート調査を行ったが、これによると中学生のみならず保護者からも“懇談会を通して、自分が気になっていた点がわかった”、“高専に興味を持つことが出来た”などの好意的な感想を含め、体験学習の内容にも全参加者の約87%の方々から“興味ある”との回答を得た。なお、懇談会終了後には、参加者の一部は女子寮の見学も行った。

このように体験学習のみならず、女子学生にだからこそ質問できる時間を懇談会として確保することで、女子の理系選択に際しての不安の軽減や払拭に繋がるような機会の提供と、本校における技術者教育についての理解が図れたのではないかと考えている。女性技術者を目指して来年度本校への入学志願者数が一人でも増えることを期待したい。

最後に、今回の体験学習において多くの教職員と女子学生の皆さんのご協力を賜った。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



活躍する仲間

第46回 全国高等専門学校体育大会

初めての全国高専大会

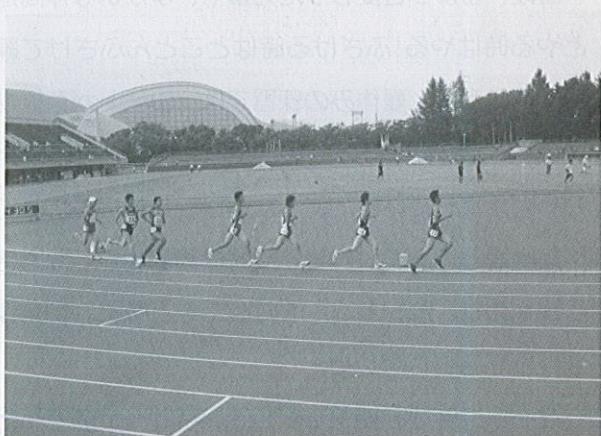
2C 久 島 憐

八月二十七、二十八日に陸上競技の全国高専大会がありました。僕は五千メートルで全国大会に出場しました。福井高専からは他に走高跳び、二百メートルに一人ずつ出場しました。

全国大会の会場は長野県長野市の陸上競技場で、一日目は二百メートルの一人と、五千メートルの僕が出場しました。そして、二日目に走り高跳びの一人が出場しました。

一日目、二百メートルの後に、五千メートルがありました。たくさんの練習したつもりだったけど、すごく緊張して、いい結果が残せるかとても不安でした。走り始めてからもなかなか思うように走れず、自分の力を出し切れないまま、悔しい結果になってしまいました。でも、二日目の走り高跳びに出場した一人が七位入賞だったので、また僕も頑張ろうという気持ちになりました。

全国大会を通して、いい結果は残せなかったけれど、自分の弱いところや苦手なところをみつけることができたのでとてもよかったです。これらの欠点をしっかり克服して、来年こそ全国大会で三位以内に入ってメダルをもらえるように、また毎日の練習を一生懸命頑張ってやりたいです。



サッカーとは

5E 藤 堂 隼

サッカーチームの活動が終わってから、もう2ヶ月が過ぎました。中学校、高専とスポーツ一筋の生活だったためサッカーをしていないと、どこか物寂しく、退屈な気分になります。時々、後輩の練習や試合を観に行くことがあります。その度、引退試合となつた全国大会のことを思い出します。

今年の全国大会は、千葉県で開催され、私達の1回戦の相手は豊田高専でした。前半は、相手に主導権を握られましたが、後半は後輩の頑張りで3点をとり、結果4対1で勝利しました。

続く2回戦の相手は、これから先一生忘れることはないだろう、徳山高専でした。

結果からいうと、ラスト10分で点をとられてしまい、0対1で敗北。私達5年生の引退が決まってしました。

決して勝てない相手ではなく、私達の方が実力は上だったと感じますが、その力を100%発揮できないことも実力の内だと痛感しました。

高専生活で最後の試合が不完全燃焼と悔いが残る結果となりました。でも後輩達には、これから私達の分まで頑張って欲しいと思います。



活躍する仲間

第46回 全国高等専門学校体育大会

10年振り・4V! 全国高専テニス・ダブルス

テニス部主将 4M 石 橋 一 真

今年のテニスの全国高専大会は8月25日から27日に千葉県の白子町で開催され、本校チームは北陸地区大会で優勝した個人戦シングルスとダブルスに出場しました。全国大会に行くのは自身3度目で、去年は団体戦の決勝も体験したことがありました。個人戦は初めてで、自分はダブルスに先輩と一緒に出場しました。大会前に県外遠征や県の国体強化練習にも参加し、万全の準備で大会に備えました。特に今大会では初日に第1シード徳山高専ペアと対戦する組み合わせで、このペアはインターハイ出場の実績と、国体の山口県代表選手でもあり、去年先輩達が負けている相手なので尚更でした。しかし、試合の前夜は「嵐の前の静けさ」と言うのか、不思議と気持ち的に落ち着いていて変な感じだったのを覚えています。

いよいよ大会初日、個人戦ダブルスの1回戦は試合の入り方を間違え、勝つには勝ったものの内容は散々なもので、前夜の落ち着きはどこかに吹っ飛び、次の最大の難関徳山高専との試合を前に不安な気持ちになっていました。しかし、そこで監督から救いの一言と仲間のサポートで何とか接戦をものにすることができました。その後も油断できない相手ばかりで気は抜けませんでしたが、大会3日目の決勝戦は室内コートで、相手が緊張しているうちに勝つことが出来ました。優勝を決めた時は、先輩に個人戦で初めての金メダルをとってもらえて安心したのと「自分より上手い人はたくさんいたのによく優勝で

きたな」と思ったのが率直な想いでした。

今年は優勝できましたが、不安要素もたくさんあってまだまだ練習が必要だと今大会を通して痛い程わかりました。今回の優勝で満足せず来年に向けてまた頑張って練習していきたいと思います



僕らの夏

F2 前 川 華 歩

F2 山 下 茉 莉

今回、私たちのペアは北陸地区の高専大会ソフトテニス女子個人の部で優勝し、長野県でおこなわれた全国大会に出場しました。

普段、ちょっと変わった先輩や、ゆかいな仲間達とやる時はやる!ふざける時はとことんふざけて練習しています。夏休みの練習では、コートが有機物(毛虫)に覆われて悲惨なことになり、みんなで瞬発力を鍛えました。また、私たちが中学校の頃にしていた練習とうってかわって練習は男子相手しかできなかったり、ハードコートだったりと慣れない条件ばかりで苦戦しました。

さらに大雑把な練習しかしていなかったので私た

活躍する仲間

第46回 全国高等専門学校体育大会

ちが全国大会に出場できたことは奇跡だと思っています。

大会前日、長野入りした私たちは、テンションMAXのまま本番を向かえ、あっけなく負けてしました。敗因は、うかれた気分と普段の練習内容の薄さだと思います。負けた時はとても悔しかったです。だから来年も出場するためにたくさん練習し、次はフルボッコにする勢いで勝ちたいと思っています。そんな私たちをいつも陰から支えてくださっている顧問の先生が大好きです。これからも迷惑をかけますがよろしくお願いします。



全国という言葉の重さ

4E 岸 下 優 介

全国大会、北は北海道、南は九州という様々な地区的ブロックを勝ち抜いた猛者達が一斉に集まり、高専剣道部の頂点を決める大会である。

全国大会レベルになると、会場入りから既に試合は始まっている。いかに強そうに、余裕がある様に

見せるかが大切で、新潟は寒かったが私は自慢の筋肉を強調するために半袖で会場入りし、いかにも猛者という雰囲気をかもしだした。しかし、上には上がいるというもので、今年優勝したK高専のメンバーが横を通り過ぎた時に、首が太すぎて見入ってしまった。来年は私もあるなりたい。

また、場馴れしていない人にありがちな、雰囲気に呑み込まれてしまう、という事態を回避することが大事である。実際、会場入りであんなことを考えていた時点で私は完全に呑み込まれていた。

そして試合へ。プランとしては私の鍛え上げた肉体が生み出す体当たりで怯ませて面、もしくは相手を誘い出しての完全自動発動型であるオート小手返し面だったが、やはり全国、全くの肩透かしを食らい、あっさり負けてしまった。

来年は、今年の教訓を活かし、全国という言葉に惑わされないようにしたい。



活躍する仲間

第46回全国高等専門学校体育大会成績

◎陸上競技 (平成23年8月27日～28日)
長野市営陸上競技場

【男子200m】
伊吹 哉太 (2El) (記録) 23秒94 (予選落ち)

【男子5000m】
久島 慄 (2C) (記録) 17分52秒70 (23位)
【走り幅】

【走高跳】
山岸 将之 (5C) (記録) 1m80cm (7位)

◎サッカー (平成23年8月20日～23日)
千葉県総合スポーツセンター・サッカー・ラグビー場 市原スポレクパーク

1回戦 福井高専 4-1 豊田高専
2回戦 福井高専 0-1 徳山高専 (^\circ ト8)

優秀選手 藤堂 隼 (5E)

◎ソフトテニス (平成23年8月20日～21日)
南長野運動公園テニスコート

【女子個人】
1回戦 山下 茉莉 (F2) 1-4 高岡 美奈

前川 華歩 (F2) 1-4 田村 沙希
(高知高専)

◎テニス (平成23年8月25日～27日)
サニーインむかい共同テニスコート

【男子シングルス】
準決勝戦 小泉 勇樹(5B) 4-8 山本 雄大
(3位) (宇部高専)

【男子ダブルス】 決勝戦 小泉 勇樹 (5B) 2-0 鮎川 秀平
石橋 一眞 (4M) 内門 大地
(優勝) (鹿児島高専)

◎剣道 (平成23年8月28日)
長岡市市民体育館

【個人の部】
1回戦 岸下 優介 (4E) 0-2 小井 健太
(和歌山高専)



□ボコンで学んだこと

4M 長谷部 崇仁

ロボコンでは何が一番大事なんでしょう。私は何事でも結果を残さないと意味は無いと思っていたので、全国大会へ出場することが一番大事だと思っていました。特に今年のロボコンには、全国大会12回連続出場の記録がかかっているのでなおさら思っていました。しかし、今回のロボコンを通して考え方方が変わりました。

話が変わりますが、各高専はルールに沿って様々なコンセプトを持ってロボットを作ると思います。今回のルールでは試合が始まつてからレシーバーがボールを取るまでの時間を用いて勝敗を決めます。このルールから最短のタイムで決めようとして一番良い手段がキャッチゾーンという領域からレシーバーまでボールを飛ばすことでした。妨害用ロボットがいても対処法はあったので大多数の高専がそのやり方を取ってきました。そこで、私達は相手の妨害ロボットを押し返しつつ、レシーバーにパスをする比較的アメフトに近いやり方を選ぶことで他の高専との違いを見せつけ、NHKに注目されやす

くなると思いました。

そして大会は1回戦、相手の様子から何とか勝てるのではないかと思い、相手ロボットを押し返していくやり方からキャッチゾーンからボールを飛ばすやり方に変えて試合に挑みました。結果は私の操作ミスで負けてしまい、1回戦敗退。本来の私達のやり方も見せれないままロボコンを終えてしまいました。

今回のロボコンで、もしも私達のやり方で試合を行ったら悔いは無かったかもしれません。ロボコンは結果を残すことに対する執着ではなく、己のやり方で精一杯試合に挑むことが大事だと学びました。



活躍する仲間

《《《《《アイラブロボットコンテスト》》》》》

ロボ魂(こん)

私は今回、福井高専Bチームとしてロボットコンテストに参加しました。今回のロボットコンテストはロボットでアメフトを行うというもので、自分はロボットから投げられたボールをキャッチするレシーバーを担当しました。ロボット製作では、重量制限オーバー、部材のたわみ、軽量化による部品の破断などの問題が起きたため、大会本番ぎりぎりまでロボットの調整を行いました。大会本番では、タッチダウンを決めることができず、二回戦で負けてしまったけれど、チームで苦労して作ったロボットがしっかりと活躍することができたとともに、賞を二つも頂き、とてもうれしかったです。

結果として全国大会出場はできませんでしたが、チームの仲間と共にロボットを製作してきた半年間

4M 伊藤涼介

は、充実した毎日でした。いろんな苦労もあったけれど、それ以上の楽しさがあり、一つのロボットをみんなで作り上げるということで、貴重な経験をすることができました。



飛角 第18回全国高等専門学校 将棋大会 王金

負けない戦い

全国高専将棋大会、予選を突破した私は決勝トーナメント一回戦を戦っていた。もう一人の参加者である若泉君は予選で負けているため、私は彼の意志を継いでこのトーナメントを勝たなければならなかった。序盤は均衡していたが、相手も予選を突破しただけあって強く、少しずつ私の状況は悪くなっていた。しかし、私は戦いにおいて決め事があり、負けない自信があった。「勝とうとするのではなく、負けないように戦う」ということ。私は最後まであきらめず、戦った。

ところで、今回大会が開かれた場所は富山県である。富山県は鰐寿司、ホタルイカ、かまぼこなどが名産品であり、かまぼこは昆布が巻いてあり、ご飯のお供にちょうどよかつた。富山県に来られた際にはぜひこれらの名産品を召し上がってみてはいかが

4C 竹内涉

だろうか。

さて、戦いの結果は時間切れで負けた。自分より強い相手に負けないように戦うと、じりじりとなぶられるように負けるようだ。去年もこんな感じで負けた気がする。「雀百まで踊りを忘れず」、まるで成長していない。部活で将棋強くなつて、来年こそは勝つ。去年も書いた気がするが、多分気のせい。



活躍する仲間

♪ ♪ 第43回福井県吹奏楽コンクール ♪ ♪

福井県吹奏楽コンクール

今年のコンクールは例年とは異なる状況下であったため、不安もあり、様々な気持ちが入り混じった中で練習を行ってきました。また曲の決定が遅かったことや他の本番の為にコンクール一本に絞って練習できる期間が少なかったことで、部全体が「もう間に合わない」と諦めかけていたように思います。

しかし、なんとかしたい、なんとか良い本番を迎えるために、と部に対して働きかけ、また部員それぞれの想いが生じ、本番直前になってようやくまとまりが出てきました。そして本番。結果や講評を見るとこれが今の実力だと感じるものでした。ですが部員から、楽しい本番だった、悔いのない演奏ができた、といった声が聞けたのでそれだけで意味のある本番になったと思いました。それからなにより、この日の本番を楽しみに来て下さった方たちから有り難い

4C 中野 あり紗

お言葉を頂けたことが何より嬉しかったです。ついでに目標を見失いがちですが、聴いて下さる方がいてこそその音楽です。このコンクールを通して音楽をすることの意義を再確認することができました。今後もみんなに楽しんで頂ける演奏を目指して努力していきたいと思います。



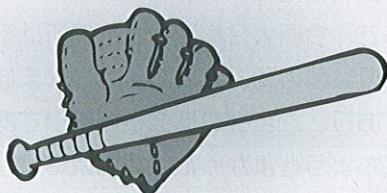
第56回全国高等学校軟式野球選手権北信越大会

軟式野球福井県大会に参加して

今回の夏の大会を迎えるまでに大変なことがいくつもありました。1つは、昨年まで一緒だったソフトボール部と分裂してしまったことです。これにより、大方の部員がソフトボール部に行ってしまい、軟式野球部の部員は2人になってしまいました。しばらくの間2人で部活をしていました。しかし2人でできることなど限られており、活動しない日が多くなりました。そして日がたち、大会1ヶ月前となり、メンバー表などを出さなければならなくなりました。非常に困りました。やむをえず友人たちに助っ人として試合に出てもらうよう頼みました。そしてそこから猛特訓が始まりました。限られた狭い場所で守備練習から始めました。メンバーは非常にユニークで、野球をやったこともないのに球速110キ

2C 大西 崇太

口に迫るような速球を投げる子や、ギブソンのような投球フォームで投げる子がいて驚きました。みんな仲が良くて楽しく練習ができるので良い思い出です。3週間ほどしか練習できなかったけど皆上手くなり、ついに試合の日を迎えました。結果は、惜敗(?)でしたが、これも良い思い出です。来年の夏はもっといい思い出がつくれるようがんばります。



活躍する仲間

第66回国民体育大会 ソフトボール北信越地区予選

うまくはいかないことも・・・

3M 稲 場 優 斗

今年の国民体育大会予選は、8月に長野県で開催されました。この国民体育大会予選は、県で一つの選抜チームを作つて出場するため、選手がそれぞれ異なる高校から集まっているという特徴があります。そのため、十分な練習ができないので、チームワークを高めるという事が難しくなっています。

しかし、私は去年に引き続き参加なので、思っていたより連携はとりやすく感じました。

試合当日、この日は大雨の為、試合がなかなか始まりず、結局試合は半日遅れで始まりました。雨のせいか気温が下がっていたので、体のコンディションはあまり良くありませんでした。試合中も雨が降っておりボールが滑りやすくなっていて、とても苦労しました。

ピッチャーとして役目は果たせましたが、打つほうは納得のいかない結果に終わってしまいました。打ければ点数が入るという場面で打つことが出来ず悔いの残る内容となってしまいました。

この試合を通して、練習通りの力を本番で発揮することは難しいこと、普段のひとつひとつの練習が大切であることを改めて実感しました。



第47回高専祭

高専祭で行う護身術の講演会

4B 芹 川 由布子

高専祭最終日の10月16日にメディアホールで護身術の講習会が行われた。警察の方が来て下さりいろんな場面を想定した身の守り方を教わった。警察の方のデモンストレーションを真似て私たちも二人一組になり技をかけ合った。最初はコツが掴めず悪戦苦闘の連続だったけれど、熱心なご指導のお陰で一時間という短い時間の中でも基本的な技を習得することができた。

今回は腕を掴まれる・抱きつかれるという場合を想定した訓練であったが、多くの女性はこのような場合パニックに陥ってしまうとのことであった。

私は今回のこの講習を受けたことでいざという時の心構えができたように感じる。護身術はもちろん大切だが、このような心構えや夜道は危ないといった意識が更に重要な事だと気付いた。

最後にこの講習を終えて一番感じたことは暗い夜道はできるだけ歩かないということである。



活躍する仲間

第 47 回 高 専 祭

高専祭について

学生主事補 五味伸之

高専祭を企画運営していた学生も、参加して楽しんでいた学生もお疲れ様でした。特に企画運営だけではなく、準備から片づけまで全般にわたって精力的に活動していた学生会のメンバーたちには、高専祭の（大）成功もあり忘れられないものになったのではないでしょうか。

忘れられないといえば、さてここで、私から皆さんに質問があります。

どうでしたか、高専祭は楽しかったですか？

この質問に対して、笑顔で楽しかったと答える人もいれば、つらそうな顔で疲れましたと答える人もいると思います。どちらの感想を持っているにしても、何かが記憶に残っているようならば、自分の高専祭は成功だったと胸をはってください。なんとなく終わってしまったなあと、ぼんやりした記憶しか残っていない人もいるかもしれません。来年はぜひとも積極的に参加するようにしてみてください。良くも悪くも思い出に残る高専祭になると思います。悪い思いでもいつかは良い思い出に変わります、ということは参加すれば参加しただけ、良い思い出が残っていくということです。思い出が一杯あった学生生活というものも悪くないですよ？

無題～俺ら次第～

高専祭実行委員長 4E 田中大樹

まず始めに、高専祭を一緒に準備して下さった先生方、そして、約半年間、共に高専祭を創ってきた実行委員の仲間に感謝したいと思います。ありがとうございました。

今年の高専祭の感想を一言で言うと、「雨がなあ。」という感じです。体育祭では豪雨に見舞われ、高専祭でも降るのではないかという噂はいろいろ耳にしましたが、まさか本当に降るとは僕は思っていませんでした。

しかしそんな雨をも吹き飛ばすくらいの、露店の活気だったり、企画での盛り上がりを感じることが出来、本当にうれしかったです。今年は、"無題～僕ら次第～"というテーマでしたが、それが思いのままに楽しむこと。

そしてそれが、高専祭全体の盛り上がりにつながるのだなと改めて感じました。

トラブルなんてものはたくさんありました。しかし、それがあったからこそ、最高の高専祭を創ることが出来たのだと思います。間違いなく、僕の中で最高の思い出となりました。

実行委員長として高専祭に携われたこと、本当に誇りに思います。



活躍する仲間

弁論大会

弁論大会を終えて

10月13日に弁論大会が行われました。今年の弁論大会が成功したのは、たくさんの人のチカラのおかげだと思います。

まず前日準備。高専際の準備で忙しいのに、学生会の先輩・友達・後輩や、文化委員のみんながシートを敷いたり、椅子を並べたりしてくれ、あっという間に準備が終わってしまいました。そのおかげで、リハーサルの時間がたっぷりとれ、本番に向けての準備がしっかりとできました。

そんなこんなで迎えた、弁論大会当日。私は、食事がのどを通らないぐらい、本当に緊張していました。でも、先輩や友達の励ましや、弁士の方の一生懸命さに、徐々に緊張がほぐれていきました。とくに、今年のエキシビションマッチでは、去年のエキシビ

文化長 3C 竹下智都美

ジョンマッチや、2・3年生の弁論とは全然違ったパフォーマンスで、予想をはるかに超える盛り上がりをみせ、聴衆や、審査の先生方を十二分に楽しませてくれました。私も自然に笑顔が出るほど、リラックスして原稿を読むことができました。その他の試合も盛り上がり、弁士の方や聴衆のみなさん、先輩方のおかげで成功を収めることができました。このような大きな行事を主催させていただいたことは、私の中でとても大きくて深い経験になりました。最後になりましたが、弁論大会を運営するにあたって協力してくださった、先生方、学生のみなさん、私を支えてくださった先輩方、友達に感謝します。本当にみなさんありがとうございました。

高専祭で行う献血に関する講演会

4C 田中めぐみ

わたしは、高専祭で献血に関する講演を聞きました。この講演のはじめに4歳の男の子が小児ガンになり、その闘病生活の間、毎日のようにたくさんの輸血をしていたとの映像をみました。このように病気のために輸血を必要とする場合を含め、事故や怪我などで1日平均で約3000人が輸血を受けていると知りました。また、この男の子のように病気のために輸血を必要とする場合が事故や怪我よりもはるかに多く、安定した輸血を受けなければ生死に関わる人がたくさん居るのだと知りました。

日本はその輸血用血液を100%献血で確保しています。しかし現在、その献血をする人は高齢者が多く、10代、20代の人の献血者の数が減っているそうです。1日に行われている輸血数の多さはわたしの予想をはるかに超えたものでした。そして、若者の献血者数が減少している事で考えられる将来の血液不足の深刻な問題に驚いたと同時にとても不安になりました。もし、自分や家族、友達が事故や重い病気で輸血が必要な時に、輸血する血液が無かつたら…。このような未来がこないためにも少しでも多くの献血者が増えるようにこの事実を知らない人に伝えたいと思います。そして、自分自身も年に何回も献血します。

まずは今度、友達を誘って献血しに行こうと思います!!

クリーン大作戦

厚生長 3B 寺尾 静佳

10月12日に学生会主催のボランティア活動の「クリーン大作戦」をしました。これは高専祭のイベントの1つなので各露店から2名程、参加をお願いしました。最初は人が集まるかとても心配でした。また、今年はルートを4つに増しました。当日まで、どこに集合するのか、4つにルートを分けて大丈夫かなど、いろいろなことを考え、試行錯誤を繰り返しました。

当日になって、心配なこともたくさんありました。人も集まり、特に問題もなくゴミ拾いを始めることができました。みんなが学校へ戻って来た時も、「楽しかった!」「きれいになってよかった」などの声が聞けたので本当によかったです。

今年は新しいことをして、いろいろな問題もでてきました。しかし、色んな方のおかげでクリーン大作戦が成功したのだと思いました。

また、クリーン大作戦で人の上に立つ責任の重さを知りました。とてもいい体験ができたよかったです。

参加してくれた学生の皆さん、優しくフォローしてくださいました。学生会の皆さん、そして高山先生、本当にありがとうございました。

活躍する仲間

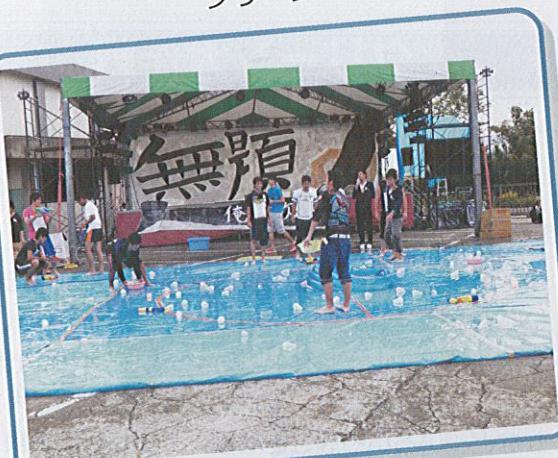
活躍する



クリーン大作戦



高専ライブ出張スタジオ



高専祭ステージ企画



少林寺拳法演舞会



高専祭露店



献血講演会

活躍する仲間

仲間たち



献血事業協力



弁論大会



東日本大地震の災害ボランティア①



東日本大震災の災害ボランティア②



吹奏楽部演奏会



デザコン2011

活躍する仲間

平成23年度教育後援会奨励研究一覧

| 学科 学年 | 申 請 者 | 研 究 題 目 | 指導教員名 | 交付金額(円) |
|----------|--------|--|-------|---------|
| 4M | 長谷部 崇仁 | ロボット「パラボラQ」の製作 | 安丸 尚樹 | 150,000 |
| 2C | 松村 岳 | 福井県およびその周辺における地殻活動の研究 | 岡本 拓夫 | 40,000 |
| 4M | 土田 啓介 | ロボット「投迅防」の開発 | 亀山建太郎 | 150,000 |
| 3EI | 井上 俊之 | 模型飛行機の製作、コントロールを通じて様々な技術を学ぶ | 高久 有一 | 60,000 |
| 3E | 杉本 翔里 | 放射線検知ロボット及び障害物回避ロボットの製作 | 米田 知晃 | 60,000 |
| 3EI | 青山 昂平 | コミュニケーションサポートシステムの開発 | 蘆田 昇 | 60,000 |
| | | 全国高専デザインコンペティション2011 in 北海道 (地域にひらかれたサテライトキャンパス・地場産材を利用した セルビングハウス・紙で作る楽器) | 江本 晃美 | 60,000 |
| 5B | かせ田 麻未 | ヒノキ材を用いた「片持構造物」の模型の作製 | 吉田 雅穂 | 60,000 |
| 5B | 辻岡 晃 | 太陽電池充電式電気二重層キャバシタの ソーラーカー・電動バイクへの搭載 | 川本 昂 | 60,000 |
| | | | 計 | 700,000 |

平成22年度 教育後援会奨励研究概要報告

ロボットAir Walkerの製作

5M 堀 内 慎

昨年のNHKロボコンは「激走!ロボ力車」というテーマで、二足歩行ロボットが乗り物に乗った人をゴールまで運ぶ速さを競う競技であった。このようにロボットよりはるかに重い人間を、二足ロボットが引っ張るという前代未聞の競技だけにアイデアの決定は難航した。

我々のチームは、最終的に、乗り物をホバークラフトにして、人間ごと浮かせるという大胆なアイデアにした。これにより、ロボットが人間を引っ張る力を最小限にできる。

しかし、ホバークラフトという前例の無い方法だけに製作中には様々な問題が生じた。直前まで調整を続けて出場した地区大会では、ホバークラフトを用いたのは我々のチームのみ、試合ではそのすべてを披露することができ注目を浴びた。そして福井高専で初めてのデザイン賞と特別賞を頂き、さらに全国大会へ進むことも出来た。ロボコンでは、アイデアを形にし、夢を実現することができる。それは授業や実験では決して体験することの出来ない貴重な経験であったと今になって思う。

ロボコンを通して

4E 漆崎亮平

22年度の高専ロボコンは、現行のBチームとしては2年目、私としては初めての大会でした。発表されたテーマは「ロボ力車」。二足歩行且つ人を一人乗せた車を引っ張るというのは、経験が殆んど無い私達にとっては無理難題のように思いました。

その後、私達はまずどのような機体にするかを話し合い、人の乗る高床式台車の中に二足歩行ロボが入って共に移動するという形に決まり、実際の製作が始まりました。ロボットの機構は大会の1ヵ月前位にはほぼ完成しましたが、足まわりのセンサが動作しない、回路が壊れるといったトラブルで、動いたのは本番直前でした。本番でも直前に回路が壊れ、結局一步を歩けませんでした。

結果は散々でしたが、グループでのプロジェクトの進め方や技術的なことを多く学ぶことが出来ました。これらを今後の人生で活用出来るよう努力していきたいと思います。

活躍する仲間

電気二重層キャパシタによるソーラーカー用蓄電システムの開発

4E 前田佳樹

本研究では、太陽電池で充電する電気二重層キャパシタ蓄電システムの動作特性を調べた。現在のソーラーカーには蓄電用バッテリーとして重金属や貴金属が使用されている鉛蓄電池が積み込まれており、耐環境性の上で問題がある。その代替として検討しているのが活性炭を材料とする電気二重層キャパシタである。電気二重層キャパシタは電極間距離が数10nmと極めて短く、有機系の電解液であるプロピレンカーボネイトを用いているため大きな静電容量を得ることが可能である。しかし、鉛蓄電池に比べるとエネルギー密度が低く放電電圧が低下していく欠点がある。この出力電圧の低下を防ぐために取り付けたDC-DC昇圧コンバータにより入力電圧が定格出力電圧の1/2になっても、出力電圧を一定に保てることが分かった。平均光強度786W/m²の光を照射した太陽電池で電気二重層キャパシタ蓄電システムを充電したところ、約6分で目標電圧値まで充電することができた。電気二重層キャパシタ蓄電システムはインターフェースなしで直接充電できるという特長がある。今後はソーラーカーにこの電気二重層キャパシタ蓄電システムをバッテリーとして使用するための設計を行う予定である。

防災・減災

2C 松村岳

今年は東日本大震災が発生し、防災や減災の必要性が日本各地で再認識された。私たち地球物理学研究会では、地殻活動や地盤特性について観測、研究を行い、特に福井県の地震活動と地球電磁気現象について統計的に調べている。また減災の観点から昨年度に引き続き、緊急時に地震の情報を流す防災ラジオも作製している私たちも、この震災から現在、

福井もいつ福井地震のような大地震に襲われるかわからないと、減災への思いを新たにし、防災ラジオの製作に取り組んでいる。

また、本年度も今立郡池田町観測室(TIJ)に行き、観測装置のデータのダウンロードや、観測室の保守を行った。また京大の研究施設を行った。ここでは観測装置や、その手法についてとても参考に考える見学ができた。

地震はいつくるかわからないので、なるべく早く防災ラジオを完成させ、減災という面で地域に貢献したいと考えている。

デザコンを振り返って

1ES 脇本貴仁

私は、昨年青森県八戸市で開催された「デザコン2010in八戸」に出場しました。デザコンとは、各高専で養い培われたデザイン力の成果を基に作品を作成し競い合うコンペティションです。

昨年のメインテーマは「もったいない」で、私達は、身の回りで抱える様々な環境問題の解決を課題とした、環境部門に参加しました。私達は福井県の抱える環境問題としてエチゼンクラグの大量発生に着目し、エチゼンクラグを超臨界乾燥させ、先端材料のエアロゲルを作ることを提案しました。エアロゲルとは非常に低密度の固体で、様々な驚異的な特性を持ち、とりわけ眼をみはる断熱性を持っています。また、様々な用途に応用されており、なんとNASAでも使用されています!!しかし、昨年度に限ってエチゼンクラグが発生せず、実証実験を行うことが出来ないまま本戦に臨まざるを得ませんでした。そこで、ポスターとプレゼンはインパクトのあるものにし、本戦に挑みましたが、結果は…(泣)今後デザコンに挑戦する学生達は、まず全国へのキップを手に入れ、更なる高みを目指し、頑張ってくれることを強く望んでいます。

活躍する仲間

デザコン2010

1ES 川崎 雄大

私達は昨年の11月13日から14日までの2日間、教育後援会奨励研究の支援を受けて八戸市において開催されたデザコン2010に参加しました。デザコンは、決められたレギュレーションのもとで知恵を出し合い、そのアイデアをかたちにし、公の場で披露するものです。毎年、全国からたくさんの高専生たちが参加しています。

4つある部門の中で、私達は構造部門に参加しました。構造部門のテーマは、仮設の橋「どこでもブリッジ」。模型をステージ上で組み立て、耐荷力を競うブリッジコンテストが行われました。決められたルールのなかで模型を作製しなければならないのですが、とても自分たちだけでは想像もできないようなアイデアをたくさん見る事ができました。

創意工夫を凝らして橋を製作し、結果が出たときもあればそうならなかったときもありました。力学的な計算や試行錯誤での模型作製を通して、とても濃厚な学習ができたと思います。最後に、後輩のみなさんには是非デザコンへの出場し優秀な成績を残して欲しいと願っています。



マルチプラットホーム向けアプリケーションを開発して

IT研究会proto代表 4EI 夢田 一貴

Androidアプリケーションの開発研究を行いました。この研究のポイントは、制作環境として標準で用意されているJava言語を使った開発手法ではなく、Flashという技術を用いて開発を行ったところです。この手法を用いることにより、Android向け用に開発したアプリケーションをパソコン、Web、iPhoneといった複数の環境で動かすことができます。本来、複数の環境で同じアプリケーションを動かすためにはさまざまな言語やスキルの取得が必要になります。ここで用いた手法ではその手間が省け、環境対応でなく、アプリケーションの中身という本質的な部分に多くの時間をかけることができます。

この研究では、いくつかのアプリケーションを開発し、それをAndroidとWeb上に公開することで、採用した開発手法の優位性の検証を行いました。また、この研究について県内外のカンファレンスで何度か発表する機会があり、アプリケーション開発に携わる多くの人にその成果や効用を伝えることができました。



学生の将来と進路

進路の決定

進路は早く決める方が楽です。君も楽な方が好きでしょう

今年度の就職戦線は、昨年に引き続き景気回復の兆しが見られない状況からのスタートであった。加えて、3月の大震災も大きく影響し、一部の企業では、計画していた求人を取りやめる、一時的に遅らせるなど、不思議めであった。しかし、後期に入る頃には、全国で比べると福井県の求人状況はやや持ち直し、従来通りの就職内定率を示すことに繋がったと考えられる。本科学生の進路希望を見ると、昨年と同様に、就職希望の学生の割合が、編入学や進学の希望者数より、多かった。これは、高専卒業生の就職内定率が、他の高等教育機関より群を抜いて良い（H23.11.18厚生労働省発表：H23.10.1現在の内定率、大学生59.9%（理系60.6%・文系59.7%）、短大生22.7%、高専生93.9%）ことから、進学するより高専卒の肩書きで就職を勝ち取ろうとするためであろう。一方、進学希望の学生もそれぞれの大学・専攻科に合格して、キャリアアップを目指し、突き進んでいくことを決めた。これらは、各学生の頑張りに加えて、専攻科委員・5学年担任をはじめ、多くの関係者各位のきめ細やかなご指導の賜であると思う。

今回の大震災は、明治維新、関東大震災や太平洋戦争終結に匹敵する変化をもたらすと考えられる。いずれも日本社会の基盤を壊し尽くすほどの大変化であるが、世界の人々は、いずれ日本は前にも増して大きく復興することを信じて疑わない。学生諸君

進路指導委員長 小泉貞之

としては、前例のない混乱した状態からの出発を考える向きも有ろうが、何が今求められるかを考え、どのような工夫が必要か話し合い、決断し実行するいい機会であると捉えて欲しい。

昨年度より助走はしていたものの、今年度から、進路指導委員会の中に幹事会を正式に設置し、低学年からのキャリア教育を確実に実施している。特別活動時間を利用して頂き、小生から話をさせて頂いた。主な内容は、「生涯賃金と年金」、「正規社員と非正規社員の格差」、「キャリア教育の歴史と重要性」、「ミスマッチの防止」、「社会人基礎力」などである。生々しいデータを示し、現実を知らしめ、高専を卒業する有利さ、自分を見つめ、キャリアを積むことの重要性を説いた。後期には、学年ごとに異なるが、OBおよび本校の学生による先輩講座、卒業研究室訪問、県経済同友会の依頼講演を実施している。4年生に対しては、他に、大学・大学院合同説明会や企業説明会、面接の心構えなどの講演も行い、着実なキャリアの構築を推進している。卒業学年の間近になってから進路を決めるのではなく、「自分自身の人生をどうするのか」、「将来どういう風に生きるのか」、「そのために今何をしていかなければならないのか」を低学年から考える必要がある。その集大成としてインターンシップを位置づけ、体験させる体制にすることが大切であると思う。

平成23年度進路内定状況

平成23年12月10日現在

| 学科 | 区分 | 卒業・修了予定者数 | 進学希望者数 | 内定者数 | | | 未定者数 | 就職希望者数 | 内定者数 | | 未定者数 | その他 |
|-------------|------------|-----------|---------|--------|--------|------|-------|----------|---------|--------|-------|-----|
| | | | | 大学(院) | 専攻科 | 専門学校 | | | 県内 | 県外 | | |
| 本 科 | 機械工学科 | 35 | 13 | 7 | 5 | 1 | 0 | 22 | 6 | 16 | 0 | 0 |
| | 電気電子工学科 | 41 (3) | 16 | 10 | 6 | 0 | 0 | 25 (3) | 6 | 19 (3) | 0 | 0 |
| | 電子情報工学科 | 36 (4) | 15 | 12 | 3 | 0 | 0 | 20 (4) | 8 (2) | 9 (1) | 3 (1) | 1 |
| | 物質工学科 | 39 (18) | 19 (10) | 12 (5) | 4 (3) | 0 | 3 (2) | 20 (8) | 6 (5) | 13 (3) | 1 | 0 |
| | 環境都市工学科 | 31 (5) | 14 (4) | 5 (1) | 6 (2) | 1 | 2 (1) | 17 (1) | 8 | 8 (1) | 1 | 0 |
| | 小計 | 182 (30) | 77 (14) | 46 (6) | 24 (5) | 2 | 5 (3) | 104 (16) | 34 (7) | 65 (8) | 5 (1) | 1 |
| 専 攻 科 | 生産システム工学専攻 | 14 (1) | 4 | 3 | | | 1 | 0 | 10 (1) | 3 (1) | 7 | 0 |
| | 環境システム工学専攻 | 13 (8) | 0 | 0 | | | 0 | 0 | 13 (8) | 11 (7) | 2 (1) | 0 |
| | 小計 | 27 (9) | 4 | 3 | | | 1 | 0 | 23 (9) | 14 (8) | 9 (1) | 0 |
| 合計 | | 209 (39) | 81 (14) | 49 (6) | 24 (5) | 3 | 5 (3) | 127 (25) | 48 (15) | 74 (9) | 5 (1) | 1 |

表中の（ ）は女子数で内数

学生の将来と進路

大学編入学試験体験記

正直なめてた

5EI 山 本 優

僕は今年、2つの大学の編入試験を受けた。4年後期ぐらいから、担任には進学する奴は早めに準備しないとヤバイと何度も聞かされていたが、参考書を買ったり過去問題を集めたのが春休み前、手を付けはじめたのが5年新学期という有様だった。その頃にはちょうど卒研室の配属が決まり、同じ大学を受ける2人が一緒になった。これで勉強も捲ると思いまして、2人も僕と同じ様に「編入試験？まあなんとかなるやろ。」といった感じで月日は流れ試験日2週間前。流石に3人共焦りが見えはじめ、放課後残って過去問解いたり、卒研の時間使って過去問解いたり、教員室転がり込んで過去問解いたりした。過去問しかやっていないと思われそうだが実際そうなのだから仕方ない。しかも試験当日は過去問の付け焼刃程度では、全く歯が立たなかった。3人共初日終わった時点で、もう帰りたいという気持ちでいっぱいだった。結果はもちろん3人共駄目、予想通りだったので悲しくはなかったが後悔はあった。「もっと早く勉強はじめていれば」これに尽きる。この後3人共心を入れ替え勉強し、2つ目の大学には無事合格することができた。来年以降受験する人達はこうならないよう、早めに準備することをお勧めする。

就職試験体験記

意見をもつということ

5C 中面谷 浩 樹

僕が内定をもらった会社は、関西電力だ。就職試験は、4月後半で就職第一陣という感じだった。ここで進路の話をすると、進学する気はなく、はじめから就職しか考えてなかつた。実際の試験は、筆記と面接で2日間あって特にどちらかを重視しているわけではない。筆記は、勉強すれば解ける。しかし面接は練習したところで、その業界のことを十二分に理解して自分の意見を考えておかなければすぐボロが出る。筆記試験はなくとも、個人面接や集団面接、グループディスカッションと企業によって違うが面接は必ずといつていいほどある。関電は集団面接で、答える順番も面接官がランダムに決める。考る時間が変わってくるので厄介だが、それだけでなく圧迫面接で有名だ。スーツ姿の見るからに堅い中年男性の試験官が4人、こちらも生徒が4人だが全員緊張している。質疑応答が始まても、ボロを出せばそこを突いてくるので考えが浅ければ通用しない。生徒の中には、明らかに沢山練習ってきて喋る文章を1字1句覚えたような人もいた。しかし面接終盤になり、業界について普段から時間をかけ考えていないと答えが浮かばないような質問では、言葉が詰まり5秒ほどフリーズしていた。僕自身、面接の練習は1回したかどうかだったが自分の意見は誰よりも持っていたし、フリーズすることもなくしっかり答えられた。緊張していて、頭の中が真っ白になつたが普段から思っていることを話すだけでも意見になると感じた。このように練習しても意見を持っていなければ、意味がない。下級生には、何に対しても普段から自分の意見をもつ習慣をつけ本番で通用するようになってほしい。

インターンシップ体験記(本科)

関西人

4M 中川貴史

今回、僕は高菱エンジニアリング株式会社という、兵庫県の会社でインターンシップ体験をさせていただきました。研修内容は専門性の含まれることなので割愛させていただきます。では何を学んできたか、というのは最後に書くとして、もう、とにかく、関西は怖かった。

公衆電話ではパンチパーマのおじさんが「コラ覚えとけよワレ!」みたいなことを大声で叫び、大阪駅では関西弁で話す人々を見て、そんなに大きな声を出さなくてもいいのに、と思いました。自己主張の激しさが福井県民の2~3倍でした。しかしふと思います。このことは社会人に、絶対必要な資質ではないかと。風当たりの強い世間で、不況が続くこの日本で、受身の体制では何も与えてもらえない社会人という立場で強く生き抜くために、関西のような元気さと積極さで物事に取り組んでいくこと。これが今、自分が身につけるべきことだと学びました。そんな姿勢で毎日を過ごすことが出来ればきっと、ステキな社会人ライフが待っているに違いありません。さあ、あなたも、レツ・ステキな・社会人。(後付けになってしましましたが、訪問先の会の方々は善い人ばかりで、怖い人は1人もおられませんでした。本当によくしていただき感謝しています。)

人とモノを“ツナグ”デザイン

4E 柿木大輔

9月5日~16日の間、インターンシップで、東京の吉祥寺にある有限会社znug design（ツナグ デザイン）という会社にお邪魔した。工業製品のコンセプト企画やデザインを行っている会社である。この会社の社長であり、デザイナー／ヴィジョンクリエーターの根津孝太さん、会計の根津里美さん、広報の稻垣敬子さんには大変お世話になった。

インターンシップ期間中、根津さんのクライアントである会社2社への出張に同行させて頂き、モノづくりの最先端を垣間見ることが出来た。

1つ目は、愛知県に本拠地を構え、日本を代表する自動車メーカー トヨタ自動車株式会社。敷地内をバスで移動しなければならない程広いその会社では、クルマと人、街、自然等に配慮したグローバルなモノづくりが行われていた。

2つ目は、千葉県にある町のバイク屋 有限会社オートスタッフ末広。一見、普通のバイク屋と変わらないが、店の奥に進むと手作りバイクが生み出される工房が潜んでいた。出張で伺ったときも、根津さんがデザインした電気バイクの制作の真っ最中であった。

その2つの会社の違いは、規模の大小だけであった。デザイナーである根津さんが、人々からの要求と技術をデザインでつなげ、どちらの会社も使ってくれる人のためにより良いモノを生み出そうという姿勢に変わりはなかった。

最後に、高専にインターンシップの制度があって本当に良かったと思う。何より、間近でモノづくりの最先端を見学できたことが良かった。私は、この経験が今後の学生生活で必ず生かされるであろうと信じている。

学生の将来と進路

インターンシップ体験記(専攻科)

インターンシップ先のおじさんとの約束

1ES 川崎 雄大

8月8日から9月9日までの約一ヶ月間、私は(株)田中地質コンサルタントにインターンシップでお世話になった。本科4年の時にも2週間のインターンシップはあったけれども、専攻科でのインターンシップは一ヶ月と少しだけ長くなっている。夏休みの半分を使って研修を行うということで、吸収できるものは何でも吸収しておきたいものである。そんなことを考えながら働く私が感じた社会のおきて3カ条を紹介する。

1. 始業時間＝始業時間-40分

「始業時間が8時10分からだからいい時間にきてよ」という言葉に7時50分出社で答えるも、社員の皆さんにはすでに現場に向かう準備万端で自分だけ遅刻の雰囲気。コンサルの朝は早い。

2. ほうれんそうの鉄則

報告・連絡・相談の3つは本当に大事なのだと気づかされた。どれかを怠ると作業が遅れたり、やり直したりしなければいけなくなる。自分なりに考えてやったことが実は手順ミスだなんてことはないよう気をつけよう。私は、きっと、やらかして、いない、はず。

3. 広げるアンテナ

インターンシップ先の業務内容にもよるが、車での移動が少なからずある。その移動している間の時間というのが実は重要で、従業員さんと色々な話をする好機である。雑談で相手を知るのもよし、仕事の話をして自分の知見を広げるもよし、人生の大先輩の話は雑談一つでもためになるので、是非この際にコミュニケーションは深めておきたい。

このようなことをインターンシップで経験して感じたのだが、来年インターンシップを行う本科3年生、専攻科志望の本科5年生に心構えとして、少しでも記憶の片隅に留められたのなら僕倆である。

専攻科生による校外発表

専攻科生によるシーズ発表

2PS 竹内 裕太郎

10月20、21日の両日に福井県産業会館において北陸技術交流テクノフェアが行われ、北陸の大学ブースが並ぶ一角に設置された福井高専のブースでは専攻科2年生のシーズ発表が行われた。専攻科生にとっていわゆる校外発表ではあるが、他学科系の専攻科生が普段どんな特別研究をしているのかを知る機会でもあった。また、各々のポスターとその説明を見ることにより、これまでの研究成果を上手くまとめる方法および説明の仕方を学ぶ良い機会であった。

私は、チタンの焼付き防止法の開発という研究内容で発表を行った。発表時間になって早々、他の大学の機械系の先生と研究内容について話し合いが始まり、その後30分程、話し込んだ。終わってもなお、様々な企業の方、他専門の大学の先生と話し合いをさらに長時間重ねた。この話し合いの中で、この研究の新たな考察や、次々とアイデアが生まれたり、私自身が分からぬままであった事柄が解決されたりと、研究が大幅に前進したと感じる。また、ディスカッションを繰り返す中、研究内容を自分の言葉で伝えることができていることに気付き、本科5年生の卒業研究発表の頃よりも研究を理解しており、研究に対する意欲も高いのだろうかと思う。そして何より、セッション終了後、どの方からも「おもしろい研究だね」や「早く実用化してよ」などの励ましの言葉を受けることができ、大変うれしく思い、今後の研究意欲がさらに高まった。



中学生の皆さんへ

キャンパスツアーワーク2011

教務主事 上島 晃智

今年のオープンキャンパス第2弾、「キャンパスツアーワーク2011」が8月6日(土)に行われました。この催しは、各学科の特徴をつかみ進路を決める参考にしてもらうために、毎年この時期に開催しています。

当日は、35℃を超える猛暑の中、生徒・保護者・教員あわせて694名の参加がありました。午前・午後別にそれぞれ6班に分かれた中学生たちは、本校1年生に案内されて各学科を回り、上級生が行うそれぞれの演示実験を見学しました。

「説明がわかりやすかった・参加してよかったです・面白かった」などの感想を多くいただき、有意義な時間をすごせたことが伺えました。



キャンパスリサーチ2011

教務主事 上島 晃智

今年最後のオープンキャンパスとして、「キャンパスリサーチ2011」が10月15日(土)に行われました。この催しは、中学3年生のみを対象として、進路決定の大変なこの時期に合わせて新たに企画したものです。

当日はあいにくの雨模様でしたが、中学生は、希望した2つの学科を各50分で体験し、より深く学科について知ることができたようでした。

また、高専祭期間中の開催だったこともあり、学科体験終了後には、高専祭を見学する生徒の姿が多くみられ、普段とは違う高専的一面も見ていただけたと思います。



中学校だより

「質実剛健」の気風を高めながら

越前市南越中学校

本校は、越前市東部の今立地区に位置し、西に行司岳を仰ぎ見る、四方を緑に囲まれた自然豊かな環境の中になります。校下には、南中山小学校、花筐小学校、服間小学校、岡本小学校の4つの小学校があります。

「希望の鐘」が設置されているシンボルタワーや、学年集会が行える各階にある学年ホールなど充実した施設の中で、398名の生徒たちは、創立以来の「質実剛健」の校是のもと、学習や部活動に励んでいます。

年間を通して、朝の会前には、静かに朝読書を行っています。帰りの会には、38の「希望の鐘」の音を静かに聴き、一日の自分の活動を省みています。また、平成23・24年度とNIEの実践校に指定され、新聞記事を読んでその感想等を書き、自分の考えを広めたり深めたりするなど、各教科や総合的な学習の時間で、新聞を生きた教材として活用しています。

部活動も盛んで、野球部は5月に行われた県中学野球選手権大会において、男子バレーボール部は10月に行われた県中学校秋季新人競技大会においてそれぞ

れ優勝しました。吹奏楽部は、中部日本吹奏楽コンクール本大会に福井県代表として出場し、3位となる「中日新聞社賞」「ヤマハ賞」を受賞しました。また、北陸地区代表として、2年連続で東日本学校吹奏楽大会に出場しました。さらに、女子駅伝チームが16年ぶりに県中学駅伝大会で優勝し、全国大会に出場します。また、2位となった男子チームとともに北信越駅伝大会にも出場するなど、生徒一人ひとりが部活動に生き生きと取り組んでいます。



学園通信

救急救命講習会・実技講習会

体育部門長 3E 前田 剛

私が救命救急講習会に参加したのは、これが初めてのことだった。最初は、どうしても恥ずかしさが残り、どこかぎこちない感じがしていた。しかし、消防署の方の話を聞くうちに、もし自分にしかこの人を救えない状況に遭遇したときこんな自分で良いのだろうか、という思いが強くなった。

人形相手に真剣に救護措置を施す練習は、自分で身の周りの人を助けているつもので取り組んだ。最終的にAEDの使用法まで教わることができ、

非常に得られたものが多い講習会になった。

これから、もしかしたら倒れている人に出会ったり、友人がいきなり倒れたりといった場面に遭遇することがあるかも知れない。そんな時には、今回学ばせて頂いた技術やコツをしっかりと用いて、人命救助に率先して取り組みたい。

そのためにも定期的にこのような講習会を見つければ参加し、いつでも処置ができるように備えていくことも大切なことだと感じ、またそれを実践していけたらと思う。

第3回福井高専音楽の夕べ
—クラシックコンサート—

企画室長 田中 嘉津彦

去る10月19日（水）午後6時から鯖江市響陽会館において、「第3回福井高専音楽の夕べ—クラシックコンサート」を開催しました。同コンサートは本校学生の情操教育と地域社会への文化的貢献活動の一環として開催したものである。

当日は、福井市出身で世界的に活躍されているヴァイオリニストの戸田弥生氏をお招きし、ピアニスト宮城さや子氏の伴奏で「バッハ作曲：ヴァイオリン無伴奏シャコンヌ」、「ラームス作曲：ハンガリーダン舞曲第5番」等の他、アンコール曲を含め全9曲が奏でられ、本校学生を始め教職員、地域の方々430名の聴衆は一流の調べに酔いしれ、芸術の秋を満喫せるものであった。

コンサート終了後のアンケート調査では、9割以上の方から「満足」以上の評価をされ、来年も同様のコンサート開催を望む声が多数寄せられた。

また、高専のイメージについての質問に対しては、「堅い」、「工専」、「技術系」のイメージが払拭されたなどの感想並びに「情操教育にも力を入れている素晴らしい学校だと思った。」というような温かいお言葉もいただいた。

ただ、残念なこととしては、本校学生の参加が少

なかつたことである。低学年生を中心に300名の参加を期待していたが、実際は190名の参加に留まった。将来、他国の多くのエンジニアと接する際には、人間性や専門分野の技術力のみならず、深い教養が必要である。若い学生の皆さんにとっては、クラシック音楽はなじみの薄い分野かもしれないが、今回のような機会を逸せず（一つのきっかけとして）、音楽を始めとする、様々な芸術や文化等と積極的に触れ合い、人間らしさと感性を磨き、幅広い教養を有する技術者に育つことを期待したい。

最後に、今回のコンサートを開催するにあたっては、学内外の多くの関係者各位のご協力とご支援を賜った。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



平成23年度
「防災訓練」の実施

総務課

本校では、10月5日（水）に鯖江・丹生消防署協力のもと全校学生・教職員が参加し、緊急地震速報の後、地震の発生と地震に伴う火災が発生したとの想定で防災訓練を実施した。

避難場所での点呼確認の後、校長より訓辞があり、消防署からは、「東日本大震災は、これまでの想定をはるかに超えた巨大地震であった。常日頃から、地震や火災が発生した場合には、自分の命は自分で守るという気持ちをもち、迅速で落ち着いた行動を心がけるように」との講評があった。

避難訓練の後、1年生全員が煙で一杯になった教室の中を通ることで煙の怖さを体験し、防災に対する意識の高揚を図った。



学寮防災訓練について

寮務主事 坪川武弘

昨年度は学生寮の防災訓練を11月に実施しました。この時期は、避難と防火訓練の間、屋外でかなり冷えます。そのため今年度は、日程を夏に変更しました。実施のために寮生の防災組織の確認などの事前準備を4月から進めてきました。防災訓練日の8月1日は女子寮からの出火を想定して、夕方8時から約1時間実施しました。訓練当日は、出火の発見と寮監・消防等への通報、初期消火の実施、全寮生への避難指示と避難後の確認が迅速にできました。また、避難後に消化器を用いた訓練も実施すること

が出来ました。消防署の方の避難訓練に対する講評の中では、初期消火と迅速な避難、ハンカチやタオル等での煙対策について評価とその重要性についての指摘がありました。

教職員と消防署との懇談の中では、今後の防災訓練についての指摘として、寮内にある消火栓設備の利用がありました。消火栓を開いての訓練はかなり大掛かりになります。今後の課題としたいと思っています。

今年度は東日本大震災の直後ということで寮生・教職員共に緊張感をもって臨むことができました。しかし、私たちは毎日の忙しさについて災害のことを忘れてしまいます。訓練でできる以上のことを見つけるものではありません。このような訓練を機会に非常時について考えをめぐらせておくことの大切さを感じます。

本当に伝えることが難しい経験

—東日本大震災の災害ボランティアに参加して—

学生主事 藤田克志

平成23年8月23日～26日まで、福井県大学連携リーグのメンバーとして東日本大震災の災害ボランティアに参加しました。本校からは、学生14名、教員1名の参加でした。

学生たちは、本校において環境都市工学科の吉田先生、辻子先生、看護師の大西さんから様々な角度からの事前レクチャを受けました。

23日夕方、雨の中、本校を出発し、福井県立大学で他大学の学生、教職員と合流しました。24日の早朝、岩手県陸前高田市に到着。ボランティア場所に向かう途中で見た陸前高田の街は、テレビなどで報道されている通りの本当に何もない状態でした。瓦礫の山の横で重機が動いていたり、何台もの破壊された車が並んでいたりという様子を見て、バスの中の学生たちはほとんど無言でした。24、25日と、わたしたちは、チームふくいのメンバーとして、広田町羽根穴の田んぼの中の除草と瓦礫の撤去を行いました。学生たちは、立派に勤めを果たしました。

26日の早朝には、全員本校に無事到着しましたが、この経験を人に本当に伝えられるようになるには少し時間がかかる、と感じています。

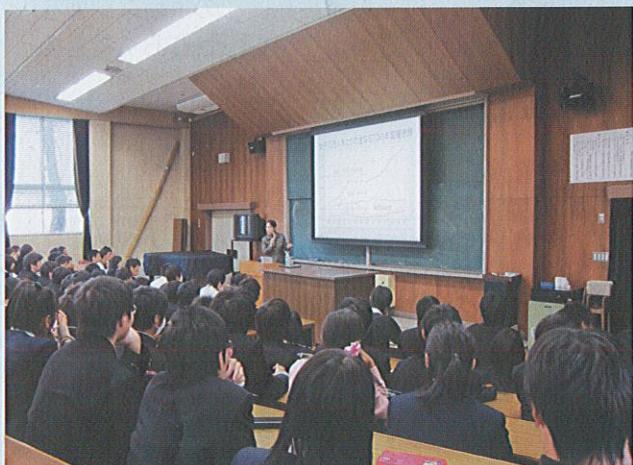
高専生活の1コマ



全国大会成績優秀者校長報告



喫煙に関する講演会（第2学年）



性教育に関する講演会（第1学年）



東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト



タイ王国短期留学生成果報告会



知的財産に関するセミナー（全学年・教職員対象）



高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

題字 池田大祐校長、マーク 本校ロゴマーク
平成23年12月15日発行 ☆福井工業高等専門学校
☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111(代)